

つながる学び、 ひろがる未来。

BRAND CONCEPT BOOK



TOKYO SEITOKU

東京成徳大学
東京成徳短期大学

はじめに

東京成徳学園全体のブランド構築という大きなテーマのもと、その第一歩として、高等教育部門である大学・短期大学のブランド戦略の検討が行われました。

「東京成徳で学ぶ学生であることを『誇り』に、
東京成徳で学んだ卒業生であることを『誇り』に、
東京成徳で教える、働く教職員であることを『誇り』にできる
規模の大きな大学にも引けを取らない
日本一の大学になろう」

そんな思いが、
ブランド・ステートメント、タグラインには、込められています。

多様性の中で共生し、 新たな自分を発見するとともに、 自らの信念をもって 未来をデザインする人材を育成します。

グローバル化がますます進むこれからの社会で、人種や民族、宗教や国籍、言語や思想、病気や障害、性別や性的指向、価値観や物の考え方などの「多様性」を受け入れ、互いの存在を認め、可能な限り理解や共感を寄せて、必要な助け合いをすることで生きていく「共生」の理解が重要であり、これらを学問や経験を通して学ぶことが大切です。

この学びや経験を通じて、これまでの殻を打ち破る「新しい自分の使命や役割を発見」しながら、確固たる「自分自身の信念」をつくり、「自分の未来」、「自分たちの社会の未来」を「描き、切り拓いていく」

東京成徳では、このような人材を育成することを約束します。

建学の精神にもある「徳」の概念は、時代や背景、立場によっても変わり、その意味も幅広く、簡単に説明できるものではありません。

このブランド・ステートメントでは、現代が必要とする「徳」を文章全体で表現することで、本学園の建学の精神との一体感を感じさせます。

さらに、東京成徳ビジョン100で掲げる「『成徳』の精神を持つグローバル人材の育成」とも目指す方向は一致します。

ブランド・ステートメントとして、本学園の建学の精神からの一貫性を保ち、目指すビジョンへとつながるものであり、本学園「らしさ」を感じる行動指針となっています。

つながる学び、ひろがる未来。

- 「つながる学び」は、
- ①「大学でのいろいろな学びが、つながり合うこと」、
「学びの内容どうしのつながり」だけでなく、
 - ②「友だちと一緒に学んで学ぶ」、「学びを通して人とつながる」、
「人々とのつながりを通じた学びがある」ことや、
 - ③「学びを通して日本や世界の人々とつながる」など、
自他のつながり、国境を超えたつながりの意味も持ち、
学ぶうえで「多様性の中で共生する」ことの大切さを示しています。

また、ここでの「学び」という言葉は、学問としてはもちろん、
「『自分を発見する』ために学ぶもの」という意味もあり、
「新たな自分を発見する」ことを示しています。

続く「ひろがる未来」には、
「自らの信念をもって未来をデザインする」という意味を含んでいます。
自分に関わる未来の可能性を広げるために、
「自分自身の信念」に基づいた行動で、
「自分の未来」、「自分たちの社会の未来」がデザインできる、
そんな人材を育てたい、という我々の意志を含んでいます。

「成徳」すなわち「徳を成す人間の育成」

創立者の菅澤重雄は、教育家であるとともに、
国会議員であり、実業家でもありました。

学園創立に当たり、
「教育の要は徳育である」との信念と、
自身の経験に基づく
「実務に役立ち、勤労の尊さを知る教育」の重要性に鑑み、
「徳を成す人間の育成」を建学の精神と定め、
学園名に「成徳」を冠しました。



創立者 菅澤重雄

『成徳』の精神を持つグローバル人材の育成

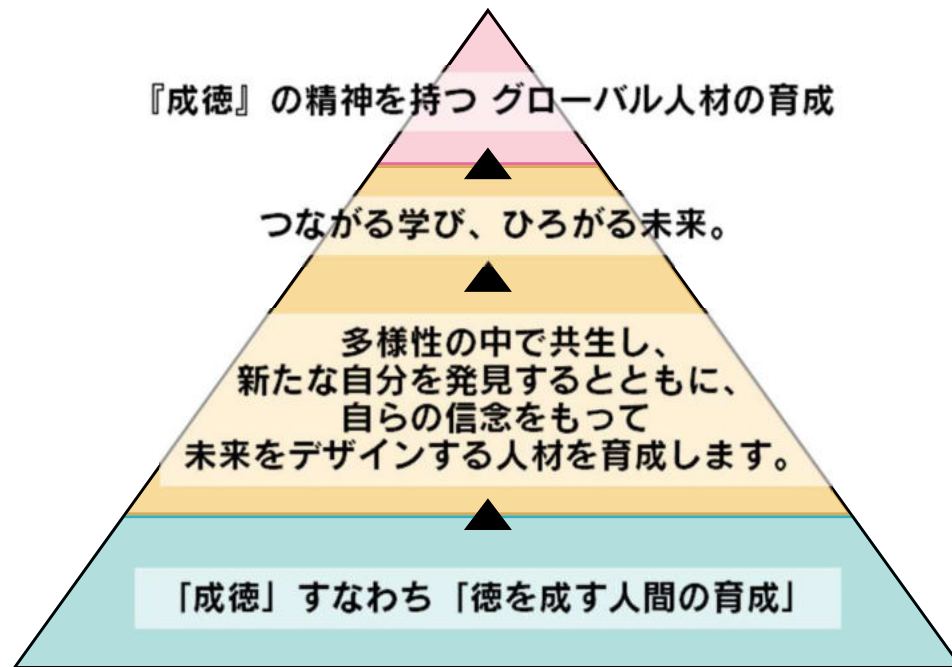
学園が目指す将来像として、
建学以来培ってきた学園の「成徳」の精神を
グローバル社会の中で発揮することのできる
グローバル人材の育成に取り組んでいます。

21世紀におけるグローバル化の進展により、
国や企業の枠組みを超えて、
リーダーシップやコミュニケーション力を発揮できる
「グローバル人材」の育成が、日本の教育界の取り組むべき課題です。

東京成徳学園は、このビジョン実現に向けて、
「オール東京成徳」で、最善の努力をもつてのぞみます。



ブランド・ステートメント、タグラインの位置づけ



●ビジョン

東京成徳ビジョン100

- 「グローバル人材」には、語学力はもとより
- ①主体的な思考、意見を持ち、行動できる
 - ②チャレンジ、リトライができる
 - ③多様性を理解し、受容し、
多様なものと連帯できるマインドがある
 - ④日本人としてのアイデンティティを持つ
ことが求められる。

●約束・行動指針

タグライン

ブランド・ステートメント

●理念 (=原点)

建学の精神

- ・どんな時代背景で
- ・どんな考え方で
- ・学校の使命は
- ・育てたい人材像は
- ・どんな社会貢献をめざしたか
- ・そのためにどんな教育をしようとしたか

補足) 「グローバル人材」について

「徳」の精神を持ち、それぞれの場所で、各自役割を自覚して、他者と連携して活躍できる人材こそ、真のグローバル人材。

木内理事長インタビューより (2019年10月)

ブランド・ステートメントに込められたもの

人や社会のために考え、
行動できる

多様な考え方や価値観を
受け入れながら

品格を持った人材

学びを通して自らを知る

5つの教育目標

人は、心で育つ。

美しく生きる人になる。

他者のために考えて行動できる

**多様性の中で共生し、
新たな自分を発見するとともに、
自らの信念をもって
未来をデザインする人材を育成します。**

自己実現に向けて
何度でも挑戦できる

「ぶれない軸」を育む

ひとり一人の個性を磨く

かけがえのないあなたとともに。

挑む、つながる、変えていく。

共生とコミュニケーション

多様な人々と協働しながら
新たな価値を創造する

これからの社会にとって
かけがえのない人材

多くの人を惹きつける

新しい「幸せのカタチ」を追求する

人は、心で育つ。

「徳」は一生をかけて築くもの。
徳がある人間になりたいと思っている間は、たどり着けるものではありません。

互いを認め合い、共生する中で、未来志向、社会志向と共に、
自己実現に向けて自己を高める努力を続けること、
人や社会のために考え、行動することが大切です。
頼られる存在、手本となる人物として
評価され、尊敬されることで、
自然と人が集まるような品格が備わるものと考えられます。

「徳」は、人と人のつながり、他者との関りから生まれるものです。
「徳を成す」ためには、他者への思いやりと日々の努力、日頃からの自己研鑽が必要です。

「徳」で人と社会に、新たな価値を描くために、
学びを通して自らを知り、そして他者を知り、
人や社会のために考え、行動できる人間力を磨きませんか。

かけがえのないあなたとともに。

一人ひとりの個性を磨き、
これからの社会にとってかけがえのない人材を育てたい。

私たちは、誰よりもあなたの可能性を信じています。

たくさんの人々と関わり、互いを理解しあうことで、
自分自身が成長していく姿を想像してみてください。
それは、きっと実現できるはずです。

今は悩むことがたくさんあっても、未来には輝かしいあなたが待っています。
学びを通して、自らを知り、他者のために行動するあなたがいます。

東京成徳は、
多くの人を惹きつける人間へと成長するあなたを
そばで見守り、成長を見届けます。

美しく生きる人になる。

「自分らしく凛として生きていく。」
今は、そんな生き方が、社会から求められているのかもしれませんが。

グローバル時代の到来により、世界でのいろいろな対立が鮮明となる中で、自分らしく、人に役立つ行いが社会から求められ、共感が集まっているように感じます。

多様な考え方や価値観を受け入れながら、自らの価値や存在意義を肯定する自己肯定感を高め、自己実現に向けて、何度でも挑戦し続ける人であってほしい。多様な社会を認め、共に生きるなかで、他者のために考え、行動できる人であってほしい。

「自分の生き方」を自ら選び歩んでいくために。

美しく生きたい、と願うあなた。
東京成徳には、新しい自分に出会える学びが待っています。

挑む、つながる、変えていく。

学問を通して自らを見つめ、
変化する社会において、自律して生きるための「ぶれない軸」を育み、
多様な人々と協働しながら新たな価値を創造しよう。

人々と向き合い、世界と向き合い、
自分の信念と、未来志向、社会志向をもって、
新しい「幸せのカタチ」を追求しよう。

失敗したって良い、また挑戦すれば良い。
何度でも、何度でも、挑戦しよう。

挑む、つながる、変えていく。
自らの成長と人や社会の新しい「幸せのカタチ」に向けて、
「ぶれない軸」をもって挑戦する皆さんと、
私たちは大きな一歩を踏み出します。



シンボル・マーク



TSシンボルは、
8本の柱をモチーフにした図形で構成

TSブルー

「理想」と「若さ」をイメージ

TSイエロー

「活力」と「勇気」をイメージ

5本の柱 = 5つの教育目標を象徴



1. おおらかな徳操
2. 高い知性
3. 健全なる身体
4. 勤労の精神
5. 実行の勇気

3本の柱 = 学生・生徒、教職員、同窓生を象徴

学生・生徒

教職員



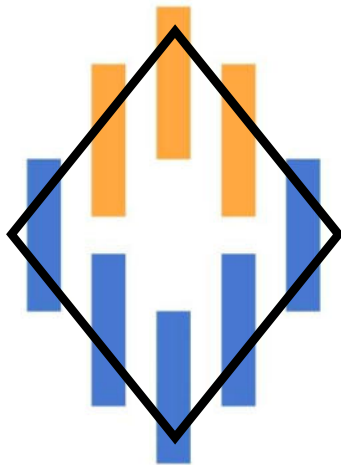
同窓生



シンボル・マーク



TSシンボルは、
8本の柱をモチーフにした図形で構成



8本の柱が一体となる様子

= 「調和」 「成長」 「理想」
のイメージ



東京成徳学園と学園に集う人々の
ヒューマニティを創りあげる姿を表現

創立者紹介

創立者の菅澤重雄は、1870年（明治3年）、千葉県香取郡高津原（現在の多古町）に生まれ、若かりし頃は、全国各地から門下生が集まる螟蛉塾（めいれいじゅく）の並木栗水（なみきりすい）の下、漢学（朱子学）を学び、勉学に励みました。

若干27歳にして、千葉県の県会議員に選出され、その後は衆議院議員、貴族院議員となり、政治家として国政にも参与しています。その一方で、明治時代末期から大正時代にかけては、3つの銀行、渋谷急行電鉄を設立、千葉県の開墾事業を完成させるなど、実業家としても多彩に活躍しました。

学校設立当初は議員や実業家であったため、自身は校長には就かず、建築費などを提供する校主として、学校を支え、見守りました。

自らの教育の信念は、
「国家の興隆は終局にあって教育であり、特に女子教育のレベルを高めなければありえない」
朱子学により人格形成をした者として、
「徳育が教育の『かなめ』でなければならない」とする思いを持っていました。

校主として、学校を支えてきた菅澤でしたが、1931年（昭和6年）、自らが校長に就任し、王子高等女学校から「成徳」を冠した「東京成徳高等女学校」に校名を改め、建学の精神である「有徳有為の人間の育成」が始まったのでした。



菅澤重雄



学園の教育目標「5つの教育目標」

1. おおらかな徳操
2. 高い知性
3. 健全なる身体
4. 勤労の精神
5. 実行の勇気

第3代理事長の木内四郎兵衛が、東京成徳中学校、東京成徳高等学校の副校長であった時、建学の精神を戦後の状況と創立者菅澤重雄の日常の言動に基づいて「5つの教育目標」として具体化しました。

教育の分野ではよく、「知徳体」というように「知育・徳育・体育」の3育を教育の基本原理とし、その中で「知性」を第一に挙げる 경우가多くあります。

しかし、「5つの教育目標」では創立者菅澤が目指した教育信念を受け継ぎ、「おおらかな徳操」として「徳育」を第一に掲げました。伸びやかではあるが堅固な人間性・人間力が、得るべき目標であり、かつ人間として築く基盤であるとしています。そして、「高い知性」「健全なる身体」に加え、菅澤自身が人生で重んじた「勤労の精神」「実行の勇気」もまたしっかりと組み込んでいます。

この「5つの教育目標」は、戦後の学園傘下の各学校の教育において、中心的な指針として展開されました。現在においても、その意義は失われてはならず、本学園シンボル・マークのTSブルーの5本の柱に象徴されています。



第3代理事長
木内四郎兵衛

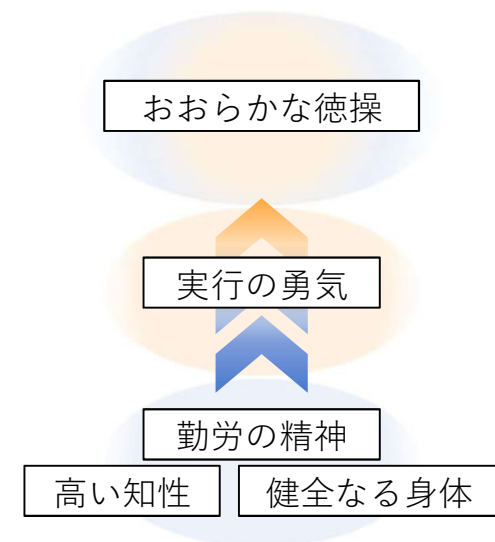
学園の教育目標「5つの教育目標」

「徳」は生涯をかけて築かれるものです。
「おおらかな徳操」は、人間としての最終目標でもあります。

同時に、「高い知性」「健全なる身体」に、
「勤労の精神」をもって一生懸命に働くことが必要、としています。
つまり、私たちは知性を磨き、身体を鍛え、
その上で、社会にとって有意義な存在であろうとする
社会参加の精神が必要である、と言いかえることができます。

徳を築くことを目標に、社会参加の精神を持つ一方で、
実現に向けて、自分の信念に基づいた行動を起こす必要があります。
理想を現実にするための行動、これこそが「実行の勇気」です。

最終目標の「おおらかな徳操」と
徳を成すための基礎である
「高い知性」「健全なる身体」「勤労の精神」という3要素を
「実行の勇気」が結ぶことで実現する、
という関係性を見ることができます。



大学開学時の理念「共生とコミュニケーション」

何よりも先ず己がアイデンティティを確立し、人類に普遍的な寛容の精神を軸とするヒューマニティを涵養し、他者や異文化を理解すること、絶えず自己改革を行いながら、社会の変化やものごとに柔軟に対応し、他者と共生する能力を持った人材にならなければなりません。人間理解に富む柔軟な人材の育成こそ、本学の建学の精神であり理念に他なりません。

経済大国となって日本は、国際社会の中で果たすべき役割についても、急速に増大してきていますので、地球規模で考えることの出来る国際人、人間が人間に対する深い思いやりと奉仕の精神をもって、世界の平和、人類の進展に寄与できる人材の育成こそ益々必要となってきています。

東京成徳大学 入学式（1993年4月12日）学長木内四郎兵衛 式辞より



今日的な課題（当時）

- ・ 国境を超えた経済活動の促進による国際化
- ・ ニューメディア・コンピュタリゼーションによる情報化
- ・ 男女平等、女性の社会進出
- ・ 少産少死・医学の進歩・生活環境の改善による高齢化
- ・ 民族・文化・宗教等の個別的な価値を認めること
- ・ 地球規模での社会の融合

地球規模で考えることのできる
国際人の養成・老若共生の構築

大学開学時の理念「共生とコミュニケーション」

20世紀

極度に発達した物質文明の時代

占数主義・物量への過度の信仰により、
限りなく人の欲望が増幅
良識の範囲を逸脱することも多く、
他を省みる余裕が無くなる「不道德な時代」

1993年

東京成徳大学の開学時

生命文明、
精神文明へ向かう
夜明けの時期

21世紀

生き甲斐に価値を求める生き方が、
より大切な時代に

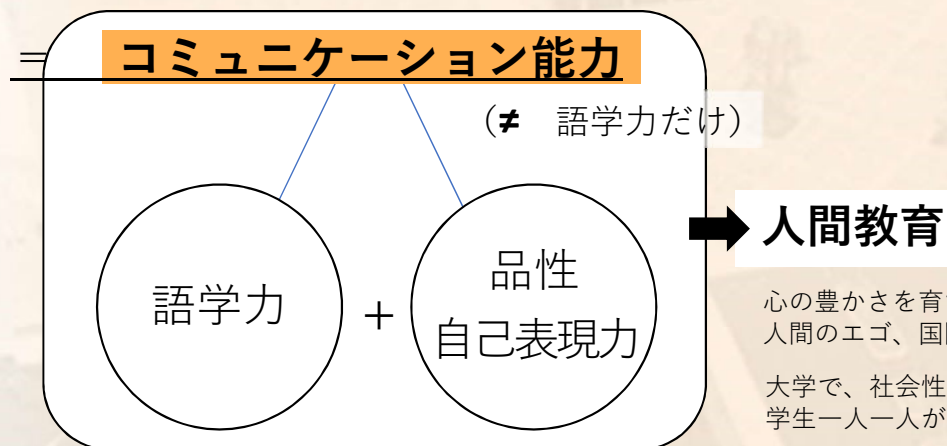
地球上の全人類
- 特に弱者や老人 -
ひいては全ての生物に
思いやりと愛情を持てる人間になる

= **共生する能力**

共生とコミュニケーション

>> この大学開学時の理念は、
ブランド・ステートメントに
しっかり引き継がれています。

国際化への必須条件



心の豊かさを育てることで、
人間のエゴ、国際的エゴ、民族的エゴ、宗教的エゴなどを超克する

大学で、社会性と今日的意義を学生に伝える必要、
学生一人一人が自分自身の人生の設計ができるよう授ける働きが必要

本学の使命は、成徳の名が示すとおり「徳を成す人間の育成」です。この「徳」を、加速度的に変化する時代の流れの中で、現代を生きる人々にもわかりやすい簡潔な表現に置き換えられないだろうか。もちろん「徳」は、人や社会との出会いの中で生まれ、育まれ、鍛えられてゆくものです。「異質で多様な他者との出会い、そして共生。その中で新たな自分を見いだし、信念を持って未来を創り上げてゆくこと。」「つながる学び、広がる未来。」新たな人や学びとの出会い。人や学び同士がつながり新たな世界があらわれる中で、未来の広がりを実感すること。このような言葉の中に、大きく豊かな感性に包まれた新しい「徳」の形をイメージしてくだされば喜ばしい限りです。これらのステートメントは、新型コロナ禍の時期にオンラインによる全学研修会の中で発表されました。わたしたち教職員一同も、ポスト・コロナ社会の新たな指針として、このブランドステートメントをしっかりと意識し、よりよい大学作りに全力で努めるつもりです。

2021年4月
東京成徳大学
学長 吉田 富二雄

つながる学び、ひろがる未来。

東京成徳大学 東京成徳短期大学

ブランド戦略会議

委員

新井邦二郎	木内 秀樹	芳賀 克彦	阿部 宏徳	川北 準人
直井 崇	徳永 朗	岩瀬 弘和	長谷部孝司	内田 善浩
田中 浩二	渡部 賢	小林 雅央	田畑 正彦	渡邊 博
田村千恵美	木内 雄太	龍野 祐介		

ワークショップメンバー

水谷 清佳	菊池 春樹	夏原 隆之	坪井 瞳	武井 孝介
杉本 亜鈴	柴田 真美			



学校法人 東京成徳学園

〒114-8526 東京都北区豊島8-26-9
TEL : 03-3911-2411 FAX : 03-3911-6500
<https://www.tokyoseitoku.ac.jp/>

企画編集・発行：学校法人東京成徳学園
©2021 TOKYO SEITOKU GAKUEN All Rights Reserved

東京成徳大学
東京成徳短期大学
東京成徳大学中学・高等学校
東京成徳大学深谷中学・高等学校
東京成徳短期大学附属幼稚園
東京成徳短期大学附属第二幼稚園